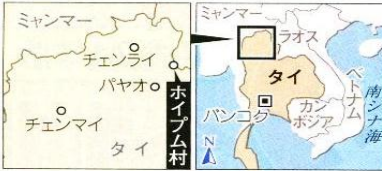


発行：2012年2月22日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

東京新聞掲載記事 平成24年2月12日(日)

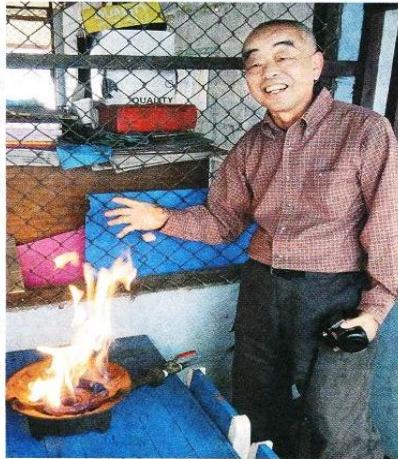
東京新聞 2012年(平成24年)2月12日(日曜日) 11版 国際 8



●大腸菌は死滅
タイとラオスの国境地帯で、ここから
の急な山道を四輪駆
動車で登ると、約三百

タイ北部の山岳少数民族モン族の貧村で、日本人ボランティアが「トイレの神様」として村人の尊敬を集めている。人のふん尿を水や燃料ガスに変える「エコトイレ」を編み出した山口市の佐伯昭夫さん(67)。村人と寝食を共にし、トイレの普及や営農指導に長年奮闘してきた佐伯さんを現地に訪ねた。(タイ北部バヤオ県で、杉谷剛、写真も)

タイ・モン族の村に日本人ボランティア



ふん尿を発酵させて採取したメタンガスに点火し佐伯さん

エコトイレの神様

人のモン族が暮らすホは液化化する。第一槽 スが発生する。保育園の村々を訪問した際、だめーを思い出し、二イプム村に着いた。以降で微生物がふん尿ではそれを調理に使っ 人ふんが浮いた水たま ○○二年から本格的に 保育園の裏手にコン 中の有機物を食へ、さている。ライターの火で遊ぶ子どもたちを 導入に取り組んだ。 クリート製の大きな五らに分解される。中を を近づけると、炎が勢 見て胸を痛めた。 豚のふん尿による実 た。この中にふん尿 臭くなく、水に似た液 も臭くなかった。 ぬ人が多かった。発生 返した後、○五年に第 をためておくだけで、 体がたまってた。 ●肥のために着想 原因の一つは不衛生な 一号が完成した。家庭 用は二槽式で三万二千 真水になる」と言っ 最後はヨソ素やり 山口県企業局に勧め トイレだと思つた」 当時のトイレは地面 ヲ(約八万円)。日本 ぶん尿はまず、空気 水になり、畑に送って なが、エコトイレの開 に穴を掘っただけ。く の浄化槽より格段に安 を遮断した第一槽に 再利用すると佐伯さ 発を思い立ったのは一 み取りはなく、雨期に く、下水設備は不要。 定期間たためられ、自然 ん。「人ふんで育てた 九九八年。モン族を支 なるふん尿が外にあ 電力や動力も使わず、 発酵する。この「嫌気 野菜は柔らかく甘みが 援していた地元NP ふれた。農家生まれの 環境に優しい。地球環 処理」により大腸菌や 豊か」と満足げた。 ○法人「シャンティ山 佐伯さんは、子供時代 境基金が付き、ホイブ 病原菌は死滅。ふん尿 第一槽ではメタンガ 口の一員として現地 に肥料水をくんだ「肥 ム村ではこれまで計三



タイ北部ホイブム村の保育園に設置されたエコトイレ。右端の第槽からメタンガスを収集する。雨でふん尿があふれなくなったのでうれしいと話すチャンさん(左端)らホイブム村の住民たち



浄化槽で無害に 燃料などに再利用

十三世帯に設置した。 ●飲んでも平気 四児の母親チャンさん(○)は「以前は用を 足している時、犬や豚 が便を食へに来るのが 嫌だった。今はとても 幸せ」。農家の男性ヨ ンハウさん(○)は「昔 は病気が多かった。佐 伯さんが村に来るよう になり、みんな喜んで いる」と話した。 モン族の支援を始め て二十三年。今も村に 電気はなく、明かりは ろうそくだ。一年の半 分は小屋で暮らす佐伯 さん。「ウンコから採 れた清水は試しに何度 も飲んだ。食べ物もで きるけど、売れるかど うかは別だ。日焼け した顔がほったんだ。 モン族 中 国南西部やベ トナム、ラオ ス、タイ北部に住む山 岳民族。中国ではミャオ と呼ばれる。ラオス のモン族はベトナム戦 争時、米軍に協力して 共産主義勢力と戦った が、1975年の共産 政権誕生で20万人以上 がタイに逃れ、さらに 多数が米国やカナダに 移住した。

—環境衛生活動募金にご協力をお願いします。—

2012.2.22saeki